

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、自らの経験に基づき設問に素直に答えている論述が多かったが、問題文に記載してあるプロセスや観点などを抜き出し、一般論と組み合わせただけの表面的な論述も見受けられた。また、実施事項の論述にとどまり、実施した理由や検討の経緯など、システムアーキテクトとして考慮した点が読み取れない論述も散見された。システムアーキテクトとして、自らが実際に検討して取り組んだ内容を具体的に論述してほしい。

問1

問1では、多くの論述で、検証の方法、工夫した内容について具体的に論述しており、実際に検証に携わった経験がうかがえた。一方で、仮説やPoCの内容を明確に述べていない論述も見受けられた。また、PoCの結果そのものの評価はおおむね論述できていたが、業務への適用可否の判断理由が曖昧な論述が散見された。システムアーキテクトは、情報システムに新技術を適用する際の仮説を明確に設定し、その仮説の検証方法を立案して検証作業を行い、業務への適用可否を判断することが求められる。設定した仮説を検証するための検証方法を事前に確立した上で検証作業を行い、適切に業務への適用可否を判断できるよう心掛けてほしい。

問2

問2では、多くの論述で、現行の業務をデジタル化した場合に生じる課題を想定し、検討した対応策について具体的に論述していた。一方で、現行業務の課題をデジタル化で解決するといった趣旨に沿っていない論述や、問題文の事例をなぞっただけで受験者の工夫がうかがえない論述も散見された。システムアーキテクトは、デジタル化によって業務が大きく変わった場合に生じる課題を想定し、利用者が情報システムを活用して円滑に業務を遂行できるよう、課題の解決策を提案することを心掛けてほしい。

問3

問3では、多くの論述で、システム構成概要、自動化の目的・目標を記述した上で、その特徴に基づく課題、制約、対策について具体的に論述していた。一方で、システム構成の記述が不十分で自動化の目的が不明な論述、実装の細部にとどまっている論述も散見された。

組込みシステムのシステムアーキテクトは、対象となる組込みシステムの特徴、制約、課題及びその対策を関係者に説明する機会が多いと思われる。日頃からこれらの概要を適切に把握し、課題の解決策を提案できるよう心掛けてほしい。